

平成30年度 第1回長野市観光振興審議会 会議録

日 時 平成30年10月12日（金） 午後2時から午後3時30分まで

場 所 長野市職員会館3階 大会議室

出席者 委員（14人中14人出席）

事務局6人

1 議長選出

長野市産業振興審議会条例第6条の規定により、以下のとおり選出

議長：笠原 甲一 委員

2 議事（要旨）

(1) 長野市観光振興計画の進捗状況について

(2) 観光振興課の事業について

資料1 平成29年度長野市観光振興計画の進捗及び指標達成状況について

資料2 長野市観光振興計画【概要版】

資料3 平成29年度長野市観光振興計画に基づく事業実績及び評価

以上の資料に基づき事務局説明

3 質疑応答、意見など

委 員：資料3で「赤い櫛～富岡製紙工場物語」となっているが、正しくは「紅い櫛～富岡製糸場物語」である。

事務局：この場で訂正し、お詫びする。

委 員：29年度はアクションプラン中心に取り組んだという認識でよろしいか。

事務局：重点戦略であるアクションプランを具体的に進めながら、政策体系に基づいた事業も2本立てで行った。

委 員：資料1の満足度について。満足度の数値が低いのに、リピート率が高いのはなぜか。

事務局：今回のアンケートは686人に「とても満足・まあ満足・やや不満・とても不満」の4段階で調査を実施。「とても満足」だけでなく「まあ満足」も合わせると比較的満足度の数値は高いと捉えている。

委 員：それぞれの評価の具体的な理由も聞いているのか。

事務局：長野市の観光についての満足度を4段階から選んでもらうというもので、理由など詳細までは調査していない。今後、アンケートは毎年実施する予定。要望があれば具体的な理由の調査も検討していきたい。

委 員：長野市観光振興計画、各項目に目標値が設定されていることは好ましい。資料3の事業評価は結果の報告となっているが、インバウンド入込み人数等は目標に対する

達成度の何%と明瞭化があればよい。数多くのプロモーションマネージメントに対しての投資額、これはどこまでを投資とするかで基準が難しいと思うが、投資額と実質的な観光による地域への経済波及額の分析を年度毎に比較し、次年度への事業継続性を強化することが目標達成に近づくと考える。また、今現在の消費者物価指数は約2%、その中で平成29年度から32年度の経済波及額が前年度比の2%という設定。実質的な消費者物価指数を考えると、あまりゆとりのあるものでない。せめて消費者物価指数を上回る目標値を年度毎に掲げていかないと豊かさを実感できない。今のままでは数値が実行性に乏しいと危惧する。

事務局：達成度の割合については最終年の結果にとられることなく、毎年度検証する必要がある。消費者物価指数については、確かにこれを上回る数値を目標にすることが大切で、更に高みを目指すことが長野市のポテンシャルを高めることになることを認識している。その視点を加味し今後事業構築したい。ただ、ご指摘通り「投資額」の範囲の結論が出ず、投資額に対する達成度の数値化は難しい。しかし経費と利益について基本的な意識は持ち続けたい。

委員：長野駅から善光寺までの道は「中央通り」、「善光寺表参道」と呼び方が様々だ。善光寺・中心市街地まち歩きを推進している点からも、観光的にも魅力のある響きの「善光寺表参道」と統一したらどうか。

事務局：その道の呼称は議会でも質問があった。この件については所管の建設部で検討している。

委員：呼称の統一は大賛成。補足だが、地元地域は、善光寺下駅からの道を「東参道」、城山からの道を「北参道」と呼ぶ。観光でのアピールには中央通りを「善光寺表参道」で統一するのは妙案である。

議長：善光寺表参道イルミネーションについてはどうか。

委員：善光寺仲見世は夜6時には閉店する店が多いが、この期間は商店街で一体となって盛り上げることを期待したいところだ。

委員：「灯明まつり」と同じイメージで、宿坊も含め協力できないか模索している。仲見世の商店会にも協力要請していきたい。

議長：委員会でも案が出たと長野市でも接触をしてもらいたい。

委員：電車も御開帳の時には善光寺下駅に特急を止めた経緯がある。それぞれの分野でできることをしていきたい。

委員：最近海外からの観光客が増えている。インバウンドへのPRはどう考えているのか。

事務局：既に観光コンベンションビューローと連携し、ターゲット国である台湾でツアー増加の要請をした。また、関係各所にチラシとポスターを配布し周知を図っている。チラシにはQRコードも入れ、専用のHPも立ち上げた。いずれも日本語・英語・繁体語と多言語で展開している。実際問い合わせもあり、徐々に浸透していると実感する。

委員：海外のお客様はかなり前から旅行の計画をするが、来年以降の予定を知りたい。

事務局：今回は第1回目のため、媒体にはイメージ画像の掲載になるが、来年度以降は、実際の映像と写真を利用し、もっと早い時期から積極的に海外にPRできるものと考えている。ターゲット国を中心に早めのツアー増勢と誘客活動を継続していく。

委員：開催時期は今回と同じか。

事務局：まだ協議中である。今回のインバウンドの入込みの状況を見ながらトータルで判断したい。今年と同じ時期であれば、年末年始・灯明まつりとの連続性を考慮し、戦略を練りたい。

委員：ターゲット国選定の基準を知りたい。

事務局：今、長野市に宿泊を伴う来訪で一番多い国は台湾である。中国・シンガポール・タイ・インドネシアと東南アジアからの客数が実際に伸びている。宿泊数が多く、経済発展が著しい国を選んでいる。

委員：資料1の観光客やインバウンドの数はもちろん、善光寺の参拝者数、電車の乗降者数、ぐるりん号の利用者数等、具体例を参考データとして教えて欲しい。